

## 抗菌薬含浸中心静脈カテーテル 適正使用基準

本品は、基本的な感染症対策に代わるものではなく、耐性菌発現の潜在的リスクもあるため、本品を有効かつ安全に使用するためには、本品を使用する必要性が高いと判断される患者に適正に使用されることが重要となる。

以下の項目のいずれかに該当する症例において、特別な対策として抗菌薬含浸中心静脈カテーテル（CVC）を使用する。添付文書の内容を確認の上、含浸抗菌薬にアレルギーを有する症例は禁忌とすること、妊婦、授乳婦や 8 歳以下の小児では含浸抗菌薬による有害事象の可能性を留意したうえで使用する。

1. 基本となる包括的予防対策\*が行われているにも関わらず、許容できない高い中心静脈ライン関連血流感染（CLABSI）発生率が問題となっている施設や病棟並びに患者集団で、2 週間以上の長期 CVC 留置が必要な場合
2. 下記のいずれかに該当する症例で 5 日を超える CVC 留置が必要な場合
  - 1) 包括的予防対策が遵守されているにも関わらず CLABSI の再発を繰り返す症例
  - 2) CVC 挿入時に利用できる血管アクセスが限られている症例
  - 3) CLABSI による続発症が重篤化するリスクの高い症例：最近における人工弁、人工血管グラフト、心血管系電子デバイス（ペースメーカー等）等を埋め込んでいる患者
  - 4) CLABSI 高リスク症例：好中球減少患者、熱傷患者、臓器移植患者、短小腸患者等

### \*基本となる包括的予防対策

- a. 挿入前：挿入また維持管理に関与する医療スタッフのカテーテル関連性血流感染予防に関する教育
- b. 挿入時：無菌手技の確認、maximal sterile barrier precaution、挿入操作前の適切な手指衛生と皮膚消毒、原則として大腿静脈以外のルートを選択、超音波ガイド下の内頸静脈穿刺
- c. 挿入後：カテーテルハブ、コネクター、注入部位の適切な消毒管理、必要でなくなった中心静脈カテーテル抜去、皮下トンネル型でない CVC における透明ドレッシングの 5-7 日間隔の貼り換えと挿入部ケアまたは汚染、はがれ、湿潤化時には直ちに交換、CLABSI サーベイランス実施

2015 年 9 月 16 日